

『複言語・多言語教育研究』日本外国語教育推進機構会誌 第2号

1. 発刊によせて

山崎 吉朗 (JACTFL 理事長)

2. 寄稿

① いま日本は世界の多様な言語とどう向き合うべきか

鈴木 孝夫 (慶応義塾大学名誉教授)

② 中等教育における多言語・複言語教育の可能性 (仮題)

圓入 由美 (文科省初等中等教育局外国語教育推進室長)

3. 論考

① ACTFLの歴史

當作 靖彦 (カリフォルニア大学サンディエゴ校)

② 「外国語としてのドイツ語」学習指導要領案の試み

—複数外国語教育へ向けて—

杉谷 眞佐子 (関西大学名誉教授)

③ 外国語教育としての日本語の現状と課題

—「国語・外国語・母語」の間でゆれる日本語教師と学習者—

迫田 久美子 (国立国語研究所)

④ ロシア語教育実情調査

—「将来的展望と中等・高等教育機関連携の可能性—

林田 理恵 (大阪大学)

⑤ 高校と大学の間での外国語教育の連携は可能か

山崎 直樹 (関西大学)

⑥ 高等学校第二外国語必修化提言実現に伴う課題

長谷川 由紀子 (九州産業大学)

⑦ エスペラント教育の意義と可能性

北川 郁子 (神奈川県立多摩高等学校)

⑧ 富山高等専門学校射水キャンパスにおけるロシア語教育の現状と課題

山本 有希、宮崎 衣澄 (富山高等専門学校)

校)

4. エッセイ

① 外国語学習と、ダイバシティー発想

佐々木 かをり (株式会社イー・ウーマン代表取締役)

② 東京都ロシア語学習三校プロジェクト

福田 知代 (都立北園高等学校 他)